

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

〈理学療法学科〉

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
理学療法 学科	人	人	人	人	人	6人	7人	人	21人	20人	
計	人	人	人	人	人	—	7人	人	21人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎科目	科学的思考の基盤、 人間と生活 社会の 理解	社会福祉概論	15	姫野 建二	兼任
		心理学	15	石川 貴史	専任
		社会性向上セミナーⅠ	15	川口 貴史	専任
		社会性向上セミナーⅡ	15	丸山 寿美恵	専任
		情報処理	15	古賀 浩二	兼任
		統計学	15	高元 宗一郎	兼任
		医学英語	15	小池 知英	兼任
専門基礎 科目	人体の構造と機能及 び心身の発達	運動系統学Ⅰ	23	石田 恭涼	専任
		運動系統学Ⅱ	23	丸山 寿美恵	専任
		神経系統学Ⅰ	23	綾部 雅章	専任
		神経系統学Ⅱ	23	久保 与広	専任
		臓器系統学Ⅰ	23	橋山 浩介	専任
		臓器系統学Ⅱ	23	田才 葵	専任
		運動系統学Ⅲ	23	岡 大樹	専任
		運動系統学Ⅳ	23	徳田 一貫	専任
		神経系統学Ⅲ	23	高山 翔平	専任
		神経系統学Ⅳ	23	綾部 雅章	専任
		臓器系統学Ⅲ	23	大坪 健一	専任
		臓器系統学Ⅳ	23	石田 恭涼	専任
	疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	病理学	23	久保 与広	専任
		内科学Ⅰ	15	井崎 義己	兼任
		内科学Ⅱ	15	井崎 義己	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	姫野 信吉	兼任
		整形外科学Ⅱ	15	姫野 信吉	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	濱崎 正雄	兼任

		神経内科学Ⅱ	15	上野 未貴	兼任
		精神医学	30	田才 葵	専任
		生理学演習	15	綾部 雅章	専任
		小児科学	15	佐藤 歩	兼任
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	大坪 健一	専任	
	リハビリテーション医学	15	大坪 健一	専任	
専門科目	基礎理学療法学	作業療法士論	15	田才 葵	専任
		理学療法概論Ⅰ	15	綾部 雅章	専任
		理学療法概論Ⅱ	15	大坪 健一	専任
		理学療法概論演習	15	徳田 一貫・川口 貴史	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	赤川 精彦・堀下 誉晃	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	丸山 寿美恵	専任
		臨床技能演習Ⅰ	15	橋山 浩介	専任
		理学療法評価学Ⅱ	23	丸山 寿美恵・橋山 浩介	専任
		臨床技能演習Ⅱ	23	丸山 寿美恵	専任
		理学療法評価学Ⅲ	38	綾部 雅章	専任
		臨床運動学	15	石堂 優太	専任
	理学療法治療学	運動療法Ⅰ	15	綾部 雅章	専任
		運動療法Ⅱ	23	徳田 一貫	専任
		物理療法	23	橋山 浩介	専任
		日常生活活動	15	丸山 寿美恵	専任
		日常生活活動演習	15	丸山 寿美恵	専任
		義肢装具学	30	野中 昭彦・金子 凱	兼任
		運動器障害理学療法学Ⅰ	15	橋山 浩介	専任
		運動器障害理学療法学Ⅱ	23	徳田 一貫	専任
		運動器障害理学療法学Ⅲ	15	丸山 寿美恵	専任
		運動器障害理学療法学Ⅳ	23	田中 泰光	兼任
		神経障害理学療法学Ⅰ	15	石堂 優太	専任
		神経障害理学療法学Ⅱ	23	川口 貴史	専任
		神経障害理学療法学Ⅲ	15	橋山 浩介	専任
		神経障害理学療法学Ⅳ	23	徳田 一貫	専任
		内部障害理学療法学Ⅰ	15	大坪 健一・大野 航輝	専任・兼任
		内部障害理学療法学Ⅱ	23	大坪 健一・大野 航輝	専任・兼任
		小児理学療法学	15	加賀良 健太	兼任
理学療法技術論		15	田中 泰光	兼任	
臨床技能演習Ⅲ	23	石堂 優太	専任		
地域理学療法学	地域リハビリテーション	15	松下・藤本・大森	兼任	
	生活環境論	15	丸山 寿美恵	専任	
	介護・体験実習	23	橋山 浩介	専任	
臨床実習	短期臨床実習	90	丸山 寿美恵	専任	

		長期臨床実習Ⅰ	180	綾部 雅章	専任
		長期臨床実習Ⅱ	180	綾部 雅章	専任
選択必修 科目		理学療法セミナー	60	綾部 雅章	専任
		体験学習	8	川口 貴史	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院内リハビリテーションの見学	1年前期	体験学習	1年前期
介護・コミュニケーション体験	2年前期	介護・体験実習	2年前期
介護・情報収集・検査測定の実践 (模倣レベル)	2年後期	介護・体験実習	2年後期
情報収集・検査測定・統合と解釈の 実践(模倣レベル)	3年前期	(検査測定実習)	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制について記入してください。

自己点検・評価組織名	コア会議
委員名（委員長）	姫野 信吉
組織の開催頻度	定期的に実施するコア会議にて必要に応じて実施する
組織の取り組み内容	・卒業生による臨床技能力向上のための演習授業の拡充
	・卒業教育の活性化の検討
	・「高い専門専」「広い社会性」向上のための独自の取り組みの活用
	・自己点検及び評価の実施
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://kurumereha.ac.jp/wp-content/themes/kurumereha2017/assets/images/pdf/hyoka_r4.pdf）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	授業委員会
	委員構成等	理学療法学科教員及び作業療法学科教員
	改善の仕組みの実際	半期ごとに実施する授業評価及び自己評価を反映させながら、授業方法及び内容、到達目標、成績評価方法や基準等を見直し、3月頃に作成している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>学科会議や各委員会毎に課題について協議・議論し、改善策を提案している。また、独自の自己点検自己評価について、学校関係者の評価を得て意見を活用している。</p>

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

〈作業療法学科〉

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
作業療法 学科	人	人	人	人	人	6人	7人	人	18人	20人	
計	人	人	人	人	人	—	7人	人	18人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎科目	科学的思考の基盤、 人間と生活 社会の 理解	社会福祉概論	15	姫野 建二	兼任
		心理学	15	石川 貴史	専任
		社会性向上セミナー I	15	川口 貴史	専任
		社会性向上セミナー II	15	丸山 寿美恵	専任
		情報処理	15	古賀 浩二	兼任
		統計学	15	高元 宗一郎	兼任
		医学英語	15	小池 知英	兼任
専門基礎 科目	人体の構造と機能及 び心身の発達	運動系統学 I	23	石田 恭涼	専任
		運動系統学 II	23	丸山 寿美恵	専任
		神経系統学 I	23	綾部 雅章	専任
		神経系統学 II	23	久保 与広	専任
		臓器系統学 I	23	橋山 浩介	専任
		臓器系統学 II	23	田才 葵	専任
		運動系統学 III	23	岡 大樹	専任
		運動系統学 IV	23	徳田 一貫	専任
		神経系統学 III	23	高山 翔平	専任
		神経系統学 IV	23	綾部 雅章	専任
		臓器系統学 III	23	大坪 健一	専任
		臓器系統学 IV	23	川口 貴史	専任
	疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	病理学	15	大坪健一	専任
		内科学 I	15	井崎 義己	兼任
		内科学 II	15	井崎 義己	兼任
		整形外科学 I	15	姫野 信吉	兼任

		整形外科学Ⅱ	15	姫野 信吉	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	濱崎 正雄	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	上野 未貴	兼任
		精神医学Ⅰ	23	津留寄 衣里子	専任
		精神医学Ⅱ	23	津留寄 衣里子	専任
		生理学演習	15	津留寄 衣里子	専任
		小児科学	15	佐藤 歩	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	大坪 健一	専任
		リハビリテーション医学	15	大坪 健一	専任
	専門科目	基礎作業療法学	理学療法士論	15	石堂 優太
作業療法概論Ⅰ			15	岡 大樹	専任
作業療法概論Ⅱ			15	岡 大樹	専任
作業療法概論演習			15	久保 与広	専任
作業療法管理学		作業療法管理学	15	赤川 精彦・堀下 誉晃	兼任
作業療法評価学		作業療法評価学Ⅰ	15	高山 翔平	専任
		臨床技能演習Ⅰ	15	高山 翔平	専任
		作業療法評価学Ⅱ	23	石川 貴史	専任
		臨床技能演習Ⅱ	23	岡 大樹	専任
		作業療法評価学Ⅲ	23	石川 貴史	専任
		臨床技能演習Ⅲ	23	石川 貴史	専任
		精神科評価学	15	津留寄 衣里子	専任
作業療法治療学		基礎作業学	30	枝光 貴美子	兼任
		基礎作業学演習Ⅰ	15	津留寄・田才	専任
		基礎作業学演習Ⅱ	15	津留寄・田才	専任
		神経障害作業療法Ⅰ	23	石田 恭涼	専任
		神経障害作業療法Ⅱ	15	石川 貴史	専任
		運動器障害作業療法	15	岡 大樹	専任
		高次脳機能障害作業療法	23	筒井 裕介	兼任
		精神障害作業療法	45	津留寄・田才	専任
		発達障害作業療法	30	濱本孝弘	兼任
		高齢期障害作業療法	15	久保 与広	専任
		日常生活活動Ⅰ	30	久保・高山	専任
		日常生活活動Ⅱ	15	高山 翔平	専任
		義肢装具学	30	野中昭彦・金子凱	兼任
		内部障害作業療法	15	久保 与広	専任
地域作業療法学		地域作業療法学	15	木村伸一郎	兼任
	生活環境論	15	高山 翔平	専任	
	介護・体験実習	23	石川 貴史	専任	
臨床実習	臨床見学実習	20	石田 恭涼	専任	
	臨床作業療法	23	久保 与広	専任	

		短期臨床実習	90	津留寄 衣里子	専任
		長期臨床実習Ⅰ	180	高山 翔平	専任
		長期臨床実習Ⅱ	180	高山 翔平	専任
選択必修 科目		作業療法セミナー	60	高山 翔平	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院内リハビリテーションの見学	1年前期	臨床見学実習	1年通期
介護・コミュニケーション体験	2年前期	介護・体験実習	2年前期
介護・情報収集・検査測定の実践 (模倣レベル)	2年後期	介護・体験実習	2年後期
情報収集・検査測定・統合と解釈の 実践 (模倣レベル)	3年後期	臨床作業療法	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制について記入してください。

自己点検・評価組織名	コア会議
委員名（委員長）	姫野 信吉
組織の開催頻度	定期的に実施するコア会議にて必要に応じて実施する
組織の取り組み内容	・卒業生による臨床技能向上のための演習授業の拡充
	・卒後教育の活性化の検討
	・「高い専門専」「広い社会性」向上のための独自の取り組みの活用
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://kurumereha.ac.jp/wp-content/themes/kurumereha2017/assets/images/pdf/hyoka_r4.pdf）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	授業委員会
	委員構成等	理学療法学科教員及び作業療法学科教員
	改善の仕組みの実際	半期ごとに実施する授業評価及び自己評価を反映させながら、授業方法及び内容、到達目標、成績評価方法や基準等を見直し、3月頃に作成している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学科会議や各委員会毎に課題について協議・議論し、改善策を提案している。また、独自の自己点検自己評価について、学校関係者の評価を得て意見を活用している。